

▼メファキン「ヒサミツ」錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】メフロキン塩酸塩 (U) mefloquine hydrochloride 【分類】抗マラリア剤

【単位】▼275mg/錠

【常用量】■治療：825～1100mg/日，耐性菌には1100～1650mg/日 [いずれも体重により設定]

■予防：206.25～275mg/日をマラリア流行地域到着1週間前より開始し，1週間間隔（同じ曜日），流行地域を離れた後4週間投与

【用法】1日2～3回 [大量の水で，空腹時を避けて経口投与]

■予防には最大12週間

【透析患者への投与方法】減量の必要なし (Amet S, et al: Drug Saf 36: 83-91, 2013)

【その他の報告】データはないが100%量(12)減量の必要はなく，HDタイミングによらず投与できる (Crevoisier CA, et al: Antimicrob Agents Chemother 39: 1892-5, 1995)

【PD】データはないが100%量(12)

【CRRT】データはないが100%量(12)

【保存期CKD患者への投与方法】腎障害患者には血中濃度が上昇するおそれがあり慎重投与(1)

【その他の報告】GFR 50mL/min以下でのデータはないが100%量(12)

【特徴】キノリンメタノール誘導体の抗マラリア剤。予防および治療に適用される。消化器症状の軽減を図った製剤。半減期が長く投与中止後も体内に長期に残存する。

【主な副作用・毒性】SJS, TEN, 痙攣, 錯乱, 幻覚, 妄想, 肺炎, 肝炎, 呼吸困難, 循環不全, 心ブロック, 脳症, めまい, ふらつき, 頭痛, 平衡感覚障害, 抑うつ状態, 感情不安定, 異夢, 異常感覚, 無気力, 神経症, 視力障害, 徐脈, 低血圧, 発疹, 消化器症状など多数。投与後少なくとも4週間は自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させない。

【安全性に関する情報】MDR1の多型が精神神経系の毒性発現に関与 (Aarnoudse AL, et al: Clin Pharmacol Ther 80: 367-74, 2006)

【モニターすべき項目】貧血, 肝機能

【吸収】 $K_a=0.558\pm 0.163/\text{hr}$ (1)

【F】資料なし(1)

【 t_{max}] 5.2hr (1)

【代謝】CYP3Aで代謝(1)肝代謝を受け，カルボン酸体に変換(U)

【排泄】尿中回収率2.44% [po, 7日まで] (1)尿中未変化体排泄率1%未満(12)5% [po] (U)

【CL/F】0.031L/hr/kg (1)

【 $t_{1/2}$] 400hr (1) 15～33日 (12,U)

【蛋白結合率】98.3% (1) 98% (U,12)

【Vd/F】17.7L/kg (1) 20L/kg (12) 9～29L/kg (U)

【MW】414.77

【透析性】除去されない(1)代謝物を含めて除去されない (Crevoisier CA, et al: Antimicrob Agents Chemother 39: 1892-5, 1995)

【O/W係数】有機層に分配(1)【pKa】8.8

【相互作用】キニーネと併用禁忌(1)QT延長作用を有する薬剤との併用注意(1)CYP3Aを介する相互作用に注意(1)

【更新日】20151110

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。